

さらに、宝島産の一部の個体は、光沢は弱いものの小宝島の個体と同様の色彩的特徴を備えていることから、宝島亜種は名義タイプ亜種と奄美・沖縄亜種の両方の特徴を備えていると思われる。

引用文献

- Kurosawa, Y. 1974. A revision of the East Asian species of the genus *Chalcophora* (Coleoptera, Buprestidae), with special reference to their distribution and differentiation. Mem. Natn. Sci. Mus., Tokyo, 7: 169–192, pl.19.
- 秋山黄洋・大桃定洋, 1997. 日本産タマムシ科チェックリスト. 月刊むし Supplement (1): 10–11.
- 服部宇春, 2010a. トカラ列島悪石島でのタマムシ科の採集記録 (1). 甲虫ニュース, 169: 4.
- 服部宇春, 2010b. トカラ列島口之島でのタマムシ科の採集記録 (1). 甲虫ニュース, 170: 21.

(服部宇春 横浜市)

【短報】ニッポンセスジダルマガムシを関東内陸部で発見

日本産のセスジダルマガムシ属 *Ochthebius* Leach, 1815 は、吉富ほか (2000) により、それまでの知見等が整理され、全国各地でこの属を調査、記録するにあたっての基礎資料として大変有用なものとなっている。その資料によれば、ニッポンセスジダルマガムシ *O. nipponicus* Jäch, 1998 は静岡県伊豆半島須崎の海岸部から、友国雅章博士により2個体が採集されたのみで、その時点では生態的知見が全く知られていない種であると述べている。その後の調査成果により、福島県、茨城県、千葉県、静岡県、沖縄県といった各地の海岸環境で、岸壁を流れ落ちる淡水中にこの種が生息することが確認されたと、菅谷 (2009) によって報じられているが、いずれも海沿いから知られるのみであった。



図1. 秩父市産のニッポンセスジダルマガムシ。

筆者はこの度、海岸線から遠く離れた関東地方の内陸部である埼玉県秩父市久那 荒川本流の左岸, 27. VII. 2009; 10 exs., 同所, 1. VIII. 2009, いずれも筆者採集, 愛媛大学ミュージアムならびに筆者保

管 (図1)。

本種の生息が確認されたのは、秩父盆地の中央を東へ蛇行しながら流れる荒川の中流域で、人為的な改変の行なわれていない巨大な岸壁の下部である (図2)。この場所では、岩盤から湧水が染み出し、年中湿っている箇所がある (図3)。こうした環境を好むと考えられるコマルシジミガムシ *Laccobius masataakai* Kamite et al., 2007, あるいはコモシジミガムシ *L. oscillans* Sharp, 1884 といったシジミガムシ属 *Laccobius* Erichson, 1837 (ガムシ科)



図2. 生息地の概観。



図3. 湧水の染み出している箇所。

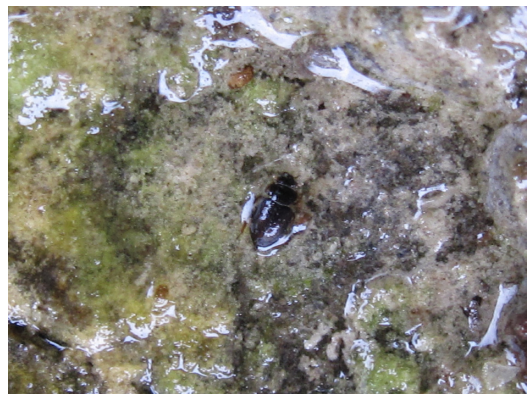


図4. 岩の表面のニッポンセスジダルマガムシ。

の種の生息状況調査を行っていた際に、岩の表面に一見ヨシトミダルマガムシ *Hydraena yoshitomii* Jäch et Diaz, 1999 に似た小さなダルマガムシが張り付いているのに気がついた (図4)。その時は本種であると感じかずに採集し、帰宅後自宅で顕鏡したところ、別の種であることがわかった。形態的特徴から本種と同定したが、既知の生息環境と異なることから、近縁の別種である可能性も考え、すぐに吉富博士に同定を依頼した。標本をご確認していただいた結果、やはり本種であったことが判明し、その際に内陸部ではこれまで記録が無いと思われる旨の知見についてもご教示いただいた。生息範囲を確認する必要があると思われるので、現地に再度調査に訪れたところ、その範囲は極めて狭く、直線距離で10 m程度であり、個体密度は比較的高いものの、河川改修などの環境変化が行なわれれば容易に消滅する可能性のある個体群であることが明らかとなった。その後、荒川流域では同様の環境をしらみつぶしに調査しているが、現在のところこの場所以外では確認されていない。

あくまでも筆者の想像ではあるが、本種が海岸から遠く離れた関東地方の内陸部で生息しているというこの状況は、古い時代に秩父が海岸沿いであったときの生き残りなのではないか、あるいはこれまで調査不十分であっただけで、実は内陸部でも同様の環境があれば他にも生息している可能性があるのではないかなど、いろいろと考えてしまう。このため、本種の生態を解明する上での興味深い知見が得られたと自負している。

また、今後の調査成果次第ではあるが、本種の埼玉県内における生息状況によっては、地域のレッドリストに加える必要もあると考えている。

末筆ながら、標本を同定していただき、発表を薦めてくださった愛媛大学の吉富博之博士に厚く御礼申し上げる。

引用文献

- 菅谷和希, 2009. セスジダルマガムシ属2種を千葉県海岸部より採集. 月刊むし, (465): 46-47.
 吉富博之・松井英司・佐藤光一・疋田直之, 2000. 日本産セスジダルマガムシ属概説. 甲虫ニュース, (130): 5-11.

(新井浩二 355-0216 比企郡嵐山町むさし台 3-22-13)

【短報】鳩間島 (沖縄県) のゴミムシダマシ類採集記録

沖縄県八重山郡竹富町の鳩間島においてゴミムシダマシを採集した。この島のゴミムシダマシ類について全く記録が見られないので、短期間の調査であるが報告しておく。

鳩間島は八重山郡竹富町に属す面積1.01 km²、標高33.8 mの小島で、西表島の北5.4 kmに位置している。島の大部分が農地と放置された草原であるが、中央部の丘陵には宗教的な意味合いから、狭いがよく管理された森が残されている。採集はタタキ網と夜間の目視とで行った。採集個体は林縁と村落周辺で獲られたものが多い。

1. ツヤスナゴミムシダマシ *Diphyrrhynchus iriomotensis* M. T. Chûjô

6 exs., 6. VI. 2008.

既産地: 石垣島, 西表島, 竹富島; 台湾。

2. コヒラスナゴミムシダマシ *Diphyrrhynchus shibatai* Kaszab

1 ex., 5. VI. 2008.

既産地: 奄美大島, 宮古島, 来間島, 西表島, 与那国島; 台湾, フィリピン。

3. ヤマトスナゴミムシダマシ *Gonocephalum coenosum* Kaszab

1 ex., 5. VI. 2008.

既産地: トカラ列島以南, 与那国島, 尖閣諸島まで; 台湾, 中国大陸からシベリア南東部まで。

4. ヒメオオニジゴミムシダマシ *Euhemicera hajimeji* (Masumoto)

1 ex., 6. VI. 2008.

既産地: 奄美大島, 石垣島, 西表島, 竹富島, 与那国島。

5. サキシマオオニジゴミムシダマシ *Euhemicera sakishimensis* (M. T. Chûjô)

2 exs., 6. VI. 2008.

既産地: 沖永良部島, 久米島, 宮古島, 来間島, 石垣島, 西表島, 竹富島, 与那国島; 台湾。

6. カラカネチビキマワリモドキ *Tetragonomeus palpalcides* (Nakane)

1 ex., 4. VI. 2008

既産地: 九州, 屋久島, 薩摩黒島, トカラ列島以南, 与那国島まで, 大東諸島。

7. ニジマルキマワリ *Amarygmus cuprarius* (Weber)

9 exs., 4. VI. 2008.

既産地: 石垣島, 西表島, 竹富島, 黒島, 波照間島; 台湾, 中国南部, ベトナム, ラオス, タイ, マレー半島, スマトラ, メンタウエイ諸島, ボルネオ, ジャ